

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業

2024年度
実施報告



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

はじめに

全国社会福祉協議会・国際社会福祉基金委員会は、1997（平成9）年から毎年、アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動を支援する「修了生福祉活動助成事業」を実施しています。修了生の活動を通じて各国の福祉の向上に寄与することを志し、2024（令和6）年度までに8か国のべ219団体に約6,526万円を助成しました。

各国で取り組まれてきた福祉活動は、低所得の家庭に対する雇用創出のための取り組みやストリートチルドレンの生活・教育の支援、高齢者の心身の健康の維持・増進、障害者の就労支援、虐待を受けた女性や子どもへの支援など多岐にわたります。

また、2024年度は特に、持続可能な地域づくりをめざし、地域住民とともに行う福祉活動やボランティア活動の活性化に向けた取り組み、インクルーシブな環境づくり等、地域住民と協力する地域福祉の活動が多くみられました。2024年度に助成を行った4か国・8件の事業について、修了生たちからのレポートをもとにご報告いたします。

末筆ながら本事業を実施するにあたり、長年ご支援いただいております、公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、そして国際交流・支援活動会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

contents

目次

はじめに	1
事業実施報告	3
The Philippines フィリピン	
Imelda Macaraig (イメルダ)	4
『持続可能な地域づくりのための福祉活動』	
Ena Marie Monter (エナ)	8
『児童養護施設で生活している子ども達の親に対する支援』	
Thailand タイ	
Somchai Rungsilp (ソムチャイ)	12
『多様なニーズに対応した福祉活動を支えるボランティアの育成』	
Ratchanee Jomsawan (ニー)	16
『障害児の親に対する職業訓練プロジェクト』	
Sri Lanka スリランカ	
Mahaladuwe Nandaratana (ナンダ)	20
『共生コミュニティの構築』	
W.G. Sanjeewa Aruna Kumara Rajapakshe (サンジーワ)	24
『聴覚障害がある子どもへの職業訓練 ～芸術的な才能を伸ばし、選択肢を広げるプロジェクト～』	
Indonesia インドネシア	
Wawan Setiawan Aks Mm (ワワン)	28
『農村地帯の障害児のための保育サービス』	
Eneng Ernawati (エレナ)	32
『高齢者向けの健康に関する意識啓発』	
資料	36

※氏名は敬称略、() 内は呼称

事業実施報告

持続可能な 地域づくりのための福祉活動

The Philippines フィリピン

氏名 Imelda Macaraig イメルダ（13期）

所属団体 セント・メアリー大学ケソン・シティ



私が所属している大学では、コミュニティ・サービス・センターを運営しています。地域のさまざまな団体・人とパートナーシップを結び、地域にある福祉ニーズに合わせて、学生や学校職員と地域住民がともに地域をつくる活動に取り組みました。

所属組織の概要

セント・メアリー大学では、コミュニティ・サービス・センターを設置し、運営しています。このセンターは、コミュニティがうまく機能していない地域に焦点をあて、その再生のために計画を策定し、地域のさまざまな団体・人の協力を得て持続可能な地域をともにつくっていくことをめざしています。私たちは、とくに地域の課題を聞き取り分析して、課題解決のために必要な取組を企画し、その取組が地域に浸透するまでの段階にかかわり、評価と改善を行っています。

事業の目的

本プロジェクトは、コミュニティとして脆弱な面がある「リサール州ロドリゲス郡ブルゴス地区のパハティ・エマオ・コミュニティ」の地域づくり・再生を目的として実施しました。

地域のなかには、リーダー的な役割を担う人がいたり、福祉活動があったりしますが、それぞれが協力することはできていませんでした。そこで、リーダー的な役割を担う人・団体や地域住民など、対象者ごとにさまざまなテーマで研修を行い、住民自身が地域をつくるための基盤を強くすることにしました。本プロジェクトによって出てきた地域の課題を整理、評価し、持続可能な地域をつくるために地域住民の福祉力を向上することをめざします。

活動地域

リサール州ロドリゲス郡ブルゴス地区にあるパ
ハティ・エマオ・コミュニティ

対象者

パハティ・エマオ・コミュニティにある各行政
区の地域住民

**事業の成果**

多くの地域住民から協力を得て、対象地域にある福祉課題を把握し、整理することができました。さらに、課題ごとに次のような活動を行い、それぞれ成果につなげることができました。

課題①：学校教育以外の場における子どもの学習支援やその体制が十分ではない。

子育て中の親や地域のリーダーに対し、子育て・教育に関する研修を行い、学校教育以外の場所・時間で、子どもの学習支援を行うことの大切さを伝えました。家庭や地域で子どもたちが学習フォローを受ける機会が増え、学校の授業についていけず良い成績が取れなかった子ども達の成績が向上したと報告がありました。

課題②：家計の管理がうまくいかない家庭が多く、困窮状態から抜け出せない。

家計の管理ができず生活に困窮している人を対象に、セミナーを開催しました。収入を得る方法、家計を管理するうえで必要な知識や視点を学び、困窮状態から抜け出すための第一歩として、必要な情報を届けることができました。

課題③：健康問題に悩む人が多い。

地域の人びとが抱える健康問題のなかで、特定の病気の発生が多いことを知りました。そこで、セミナーを開催し、健康的な生活を送るために必要な知識を伝えました。予防に力を入れることで、医療費や医薬品・薬代を削減することができました。

実施内容

《2024年4月～2025年1月》

●教育・生計・リーダーシップ訓練プログラム実施●

地域住民との定期的なコミュニケーションのなかで「子どもに対するインフォーマルな学習支援が十分ではない」、「家計の管理が難しい家庭が困窮状態から抜け出せずに困っている」といった課題が出てきました。そこで、それらを解決するための訓練プログラムを約10か月かけて行いました。まずは、地域の大人たちが、「地域や家庭で子どもたちの学習をサポートすることが大切であること」や「家計について分析し、自分で管理することが必要であること」を理解し、実践することが必要です。そのために必要な知識や生活スキルを身につけるための研修や実習を行いました。

あわせて、地域のなかでリーダーシップをとっている住民やその役割を担ってほしい住民に向けた「リーダーシップ研修」についても開催しました。



《2024年5月～2025年2月》

●持続可能な地域のための健康問題・環境問題への取組●

地域住民から、「健康問題を抱えている人が多く、支え合いが困難」、「衛生面や災害発生時の生活等、地域のなかに不安なことがある」という課題が出されました。そこで、健康問題と環境問題の両面から持続可能な地域を考えるための取組を進めました。

「健康問題」については、まず地域住民に対する聞き取りを行い、地域住民が抱えるさまざまな病気について認識しました。そのなかで、特定の病気の発生が多いことを知り、専門的な視点を入れて原因を分析しました。住民向けのセミナーを開催し、それらの情報と健康的な生活を送るために必要な知識を伝えました。

「環境問題」については、適切な廃棄物管理ができていないことによる衛生面での課題、また災害発生時の対応が住民のなかで共有されていないという課題に重点的に取り組むことにしました。住民に向けたセミナーを開催し、持続可能な清潔で緑豊かな地域づくりについて、ともに学びました。



《2025年3月》

●振り返り●

プロジェクトの最終月には、振り返りと活動の評価を重点的に行いました。住民に対するインタビューを行い、今回の活動が地域開発としてどのように役に立ったか、また今後さらに地域力を高めるために提案したい企画があるかを聞き取りました。



今後の展望

今後も地域の人びとと協力して、これらのプロジェクトを継続し、住民主体の地域づくりに取り組んでいきたいです。また、今後は若手リーダーの育成に取り組むことを検討しています。

これからも地域のさまざまな課題解決に向け、地域住民が主体的に地域をつくっていくための活動をサポートしていきます。さらに、そういった地域活動の輪に多くの若者が参加し、地域活動を企画できるようなサポートを考えたいです。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	301,600	
自己資金	564,200	
合 計	865,800	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
リーダーシップ訓練の実施	117,000	資料印刷代19,500円 / 交通費27,300円 講師謝金31,200円 / 会議費39,000円
「家計管理」訓練実施、セミナー開催	208,000	資料印刷代32,500円 / 交通費45,500円 講師謝金52,000円 / 会議費78,000円
「環境問題と災害対応」セミナー開催	163,800	資料印刷代19,500円 / 交通費27,300円 講師謝金39,000円 / 会議費78,000円
生活に困難のある家庭への個別支援	96,200	資料印刷代13,000円 / 交通費18,200円 謝金26,000円 / 会議費39,000円
振り返りと評価の実施	280,800	資料印刷代65,000円 / 交通費27,300円 謝金130,000円 / 会議費58,500円
合 計	865,800	

注) フィリピン (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1ペソ≒2.6円 (2024年5月15日の為替レート)

児童養護施設で生活している 子ども達の親に対する支援

The Philippines フィリピン

氏名 Ena Marie Monter エナ (34期)

所属団体 バハイ・トゥルヤン



私たちの財団の児童養護施設の入所理由は、両親からの虐待・ネグレクト、経済的要因等さまざまです。子どもの人生において、家族との関係は非常に重要であると考えています。家族の再構築支援について、児童養護施設入所中からより丁寧に取り組むためのプロジェクトを実施しました。

所属組織の概要

子どもの権利を守る社会をつくることを使命に、子どもに対する虐待や暴力の防止に取り組んでいます。また、児童養護施設を運営しており、家庭で生活できない子どもたちを受け入れています。私たちの組織の主な活動目的は「ストリートチルドレンへの支援」、「若者の自立支援」、「家族支援」、「子どもの権利教育」です。その目的にもとづき、児童養護施設に入所している子どもの精神的なケア、子どもの自立をめざしたキャリアサポートなど、11個のプログラムを運営しています。子ども達の成長を支えるため、地域との協力関係構築にも取り組んでいます。

事業の目的

本プロジェクトの目的は、以下のとおりです。

- 児童養護施設入所児の親に対し、子どもの権利について伝え、それを守るための方法をとるに考えることで児童虐待や家庭崩壊を防止する。
- 上記の取組を通じ、子どもの精神的なケアを行うとともに、退所後に安心して生活できる環境をつくる。

活動地域

ケソン・ラグナ・マラテ

対象者

ケソン・ラグナ・マラテの児童養護施設で生活している子ども達の保護者



事業の成果

参加者は主に私たちの財団が運営する児童養護施設入所児の親です。「子どもの権利を学ぶ」、「子どもと良好なコミュニケーションをとるための工夫」など、全部で3回のセミナーを開催しました。講義は児童の発達と発達段階に応じた適切な関わりに焦点をあて、実践的な子育てのアドバイスも盛り込んだ内容にしました。

参加者から、「子どもに対して傷つける言葉を使わずに子どもとコミュニケーションをとる方法など、子どもとの関係性を構築するうえで必要な気づきを得た。価値のある学びだった」と感想が寄せられました。子どもの権利を学び、親が自分の子育てを冷静に振り返る機会を作れたことが一番の成果だったと考えます。さまざまな事情があって子どもとともに生活できない親が、子育てに関する知識とスキルを学び、親子関係を再構築していくための重要な基盤づくりができました。



実施内容

2024年11月9日～2月15日までに3回のセミナーを開催しました。

●「子どもの権利」を学ぶセミナーの開催●

初回の参加者は14名でした。

参加者には事前にテストを受けてもらいましたが、子どもの権利についてわずかな知識しか持っていませんでした。そこで、セミナーは「子どもの権利条約」について主要条項について学ぶ講義からスタートしました。講義後はグループディスカッションを行い、「子どもの権利を最優先に考え、責任をもって養育する」ことについて、参加者が自分の子育てを振り返りながらともに学びました。

●「肯定的な子育て方法」を学ぶセミナーの開催●

第2回セミナーには、15名が参加しました。

まず「肯定的な子育てをするために必要な関わり方」を考えるワークを行い、「子どもに愛情を伝えるための前向きな声かけを書き出す」というテーマを出しましたが、参加者の多くが苦戦していました。講師から、いくつか肯定的な声掛けの例を出したり、参加者の思いに寄り添いながらアドバイスする時間を講義のなかに入れ、参加者が子どもと関わる場面をイメージしながら学ぶことに注力しました。

また自分の子育てを振り返り、「改善の余地がどこにあるか」を考えるというテーマを取り上げました。子育ての工夫を事例としてショートムービーで紹介し、参加者がディスカッションを行うことで、新たな気づきを共有しました。

●「子どもとの良好なコミュニケーション」を学ぶセミナーの開催●

第3回セミナーは9名が参加しました。

子どもの発達段階に応じた感情の変化や社会的な成長に焦点をあてました。参加者には、子どもへの声掛けが常に「脅し」のようになっていたり、日常的なコミュニケーションの取り方がイメージできていなかったり、さまざまな課題がありました。そこで、具体的な場面を取り上げながら、親子のコミュニケーションのとり方、けんかをした時の解決方法などをともに考え、子どもに対して愛情を伝え、信頼関係をつくる方法を学びました。



セミナーでは、参加者が主体的に参加するワークショップや具体的場면을提示したケース検討等を取り入れました。



参加者は、講義等からの知識とともに、グループ討議を通じた新たな気づきを得ることができました。

今後の展望

家庭内虐待が増加しており、社会問題として解決に取り組むことが必要だと考えています。児童養護施設入所中のケアだけではなく、家族の再構築支援に力を入れていきたいです。また、これらの取組は、良好な親子関係を築くことにつながると、参加者から評価されました。今後は、参加対象者の範囲を広げ、地域に住む多くの家庭にも参加いただくことができるように取り組んでいきたいです。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	290,000	
合 計	290,000	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
第1回セミナー開催	41,000	食費14,000円 / 交通費7,000円 会場賃借料5,000円 / 資料費15,000円
第2回セミナー開催	43,500	食費15,000円 / 交通費7,500円 会場賃借料5,000円 / 資料費9,000円 動画作成7,000円
第3回セミナー開催	25,500	食費9,000円 / 交通費4,500円 会場賃借料5,000円 / 資料費7,000円
参加者への経済支援	180,000	
合 計	290,000	

注) フィリピン (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 ペソ≒2.6円 (2024年5月15日の為替レート)

多様なニーズに対応した 福祉活動を支えるボランティアの育成

Thailand

タイ

氏名

Somchai Rungsilp ソムチャイ（4期）

所属団体

VDA (Volunteers for Development Association)



タイでは、制度上のサービスだけでは解決できない福祉ニーズが増えています。それらの課題に対し、ボランティアとして関わりたいと考えている人は多くいますが、ボランティアの力を必要としている人・団体にうまくつながっていません。そこで、両者をつなぎ、住民の力を大切な社会資源として機能させるための取組を行いました。

所属組織の概要

支援を必要としている人とボランティアをしたいと考えている人との架け橋になることをめざしています。私たちの活動は、修了生のボランティアが中心となって進めています。制度で決められたサービスだけでは解決できない福祉ニーズに対応するため、地域住民だからこそできるきめ細やかな活動を支えています。

また、ボランティアの育成にも力を入れています。広報活動を通じて私たちの活動を知ってもらい、ボランティアに興味を持つ人の輪を拡げるとともに、それぞれの関心や得意なことを活動につなげられるよう研修を行っています。

事業の目的

以下の目的のために実施しました。

- 多様化する福祉ニーズに対応するため、地域住民の力によってきめ細やかな活動ができるよう、ボランティアを行う人材の確保・育成を行う。
- 社会開発や社会福祉について、ボランティアとして貢献できる若者を育てる。
- 社会開発や社会福祉に取り組む団体に対し、社会資源としてボランティアをつなげ、福祉活動をサポートする。

活動地域

バンコクからおよそ340km離れたブリーラム県
ナンローン群で活動しました。

対象者

タイ国内で活動するボランティア14名。

広報としては、まだボランティア活動をしていない若者もターゲットに考え、広報活動を行いました。



事業の成果

- VDAや他の市民社会組織で福祉活動を行う団体で活動するボランティアを育成し、活動につなげることができました。また、本プロジェクトのなかで、ボランティアとして活動できる人材のリストをつくることができました。今後、他の市民社会組織からボランティアを派遣してほしいと要望されたとき、迅速につなぐことができます。
- 若い世代に対して広報活動を展開することで、社会開発や社会福祉への興味・関心の芽を育てることができました。



私たちの活動を支える修了生を中心としたボランティアの間でも密に連携をとり、プロジェクトを進めました



農村地域に出向き、実際の活動を通じてボランティア活動において重要なことを研修しました

実施内容

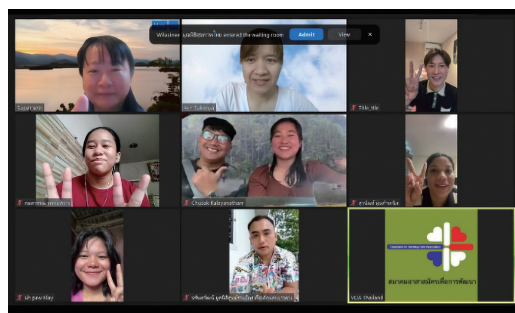
本プロジェクトのメインは、ボランティアの育成を行うことです。今回、14名の参加者に対し、ボランティア活動を行うための研修プログラムを中心に、今後の活動につながる知識の習得と関係性の構築をめざしました。

2024年5月1日～30日

VDAの活動に関する広報を行いました。若い世代を対象に、社会開発や社会福祉の分野で活動しているボランティアについて紹介し、興味・関心を持ってもらえるよう働きかけました。そのなかで、ボランティア育成のための研修参加者も募集しました。

2024年7月13日

ボランティア育成研修に応募してくれた人たちの情報をVDAの主要メンバーが確認し、参加者を選抜しました。研修への参加が決まった人たちと事前にオンラインミーティングを開催しました。



2024年8月10日～12日

ボランティア研修のメインプログラムは、農村地域に出向き、実際の活動を通じてボランティア活動で重要なことを習得することです。現地では、実践ワークショップも行い、参加者が意見交換をしながら学びあう時間を設けました。



農村地域でのボランティア活動の様子



ワークショップを行い、意見交換のなかで気づきや学びを引き出します

2024年9月～12月

ボランティアとVDAチームのメンバーは、定期的に連絡をとりあい、情報共有をしました。社会福祉・社会開発に関する活動を支える社会資源として貢献できるよう、良好な関係を続けています。



今後の展望

- ・毎年、修了生が集まる会議を開催し、タイの社会福祉と地域開発を充実させていくための情報交換を行いたいと考えています。
- ・地域開発と社会福祉の発展のために、ボランティアやボランティア組織等の社会資源を掘り起こし、ボランティアの力を必要とする人や団体との調整機関になりたいと考えています。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	327,600	
自己資金	34,650	
合 計	362,250	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
研修プログラムの準備	14,400	研修先の視察に係る旅費12,150円 打合せのための会議室賃借料2,250円
研修プログラムの開催・運営	326,250	レンタカー代81,000円 宿泊費129,600円 / 食費・茶代72,900円 研修受入先への謝礼27,000円 研修用資料代5,400円 研修に使用する資材10,350円
連絡調整に必要なツール・機材の設定・維持	21,600	電話・インターネット・Zoom利用料等
合 計	362,250	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 タイバーツ≒4.5円 (送金時2024年5月15日の為替レート)

障害児の親に対する 職業訓練プロジェクト

Thailand

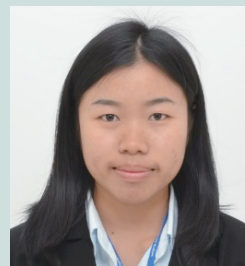
タイ

氏名

Ratchanee Jomsawan ニー（36期）

所属団体

ルアム・ミット青少年財団



私たちの財団が支援している家庭の多くは、肉体労働や農業に従事しながら障害がある子どもを育てています。両親のどちらかは自宅で子どもを育てるために定職に就いておらず、経済的に不安定です。安定した生活を送るための支援がほしいという希望を受け、子育てと仕事の両立が可能な職業選択に向けた職業訓練を行いました。

所属組織の概要

障害がある子どもへの教育支援を行っています。また、家庭訪問を通じて子どもたちの発育・発達に必要なサービスへのつなぎ等も行っています。

また、タイでは違法薬物の使用、性暴力、人身売買等が社会問題となっており、障害がある子どもが身を守るための情報提供、教育も行っています。

事業の目的

障害がある子どもを育てる家族が、安定した生活を送るために必要な支援を行うことを目的に実施しました。

私たちが支援している家庭の多くが、肉体労働や農業に従事して収入を得ています。さらに、両親のどちらかは自宅で子どもを育てているため定職に就いておらず、安定した生活を支えるための収入が十分ではありません。「子育てをしながら働きたい」と話す親は多かったです。そこで、さまざまな働き方に関する情報や知識を提供し、子育てと両立可能な職業についての訓練を行いました。

活動地域

チェンライ県ファイサック準地区、ムアン地区、
ファー・ルアン地区

対象者

障害がある子どもを家庭で育てている親45名



事業の成果

- 肉体労働や農業等、障害児の子育てとの両立が難しい職業の経験しかなかった保護者が、さまざまな働き方のイメージを持つことができた。
- 子育てに必要な時間以外の空いた時間を活用して在宅でできる仕事についての訓練を行い、スキルを身につけることができた。
- 保護者が在宅で製作した宝飾品等はオンラインや地域で販売し、より多くの収入を得て生活の安定につながった。



実施内容

2024年4月～9月を実施期間として、プロジェクトに取り組みました。

●家庭訪問の実施●

私たちが支援をしていた障害がある子どもを育てている家庭を訪問し、今回のプロジェクトについての説明をしました。また、「現在の収入は安定した生活のために十分か」、「障害がある子どもの子育てと両立して仕事したいという希望があるか」等について聞き取りを行い、45名の希望者に支援を行うことにしました。

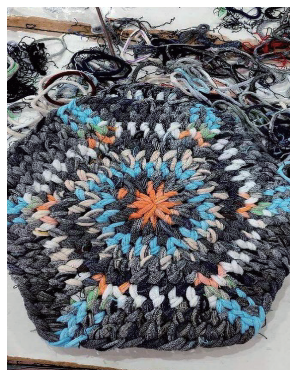
●参加者に対するオリエンテーションと面談の実施●

参加が決まった家庭に対しては、再度面談の機会を設けました。参加する親だけでなく、配偶者にも同席してもらい、訓練の内容や今後の家族プランについて話し合う機会を設けました。「障害がある子どもの子育てと両立が可能な仕事」について、私たちが考えている在宅でできる仕事の内容と今後の訓練を説明し、心配なことや希望を聞き取りました。参加者の希望を整理し、実現が可能な2つの訓練を設定しました。

●職業訓練（2コース）の実施●

参加者自身が2コースから選択し、訓練に参加しました。どちらも「障害がある子どもを育てながら、無理なく続けられる」、「自分のペースで、子育ての隙間時間を使いながら進められる」、「自分の家で作業できる」という参加者の希望が叶う内容です。

コース① ドアマット制作



コース② 手工芸装飾品の制作



今後の展望

- ・訓練終了後も、月に一度の家庭訪問を実施します。家庭訪問では、職業訓練だけではなく障害のある子どもの育児についての相談も行い、必要なサポートにつなげます。
- ・職業訓練に参加した障害児の保護者が訓練で学んだスキルを活かした仕事に就くことができるよう、職業訓練後のフォローも行います。
- ・販売している商品について、Facebook、Line、TikTokなどを活用してより広く広報します。長期的にも安定した収入を得ることができるよう、広報の工夫は非常に重要だと考えます。
- ・今後は障害者のために、金銭面での支援や生活における支援や相談、身体面のサービス提供や相談ができるセンターを設立したいと思っています。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	334,880	
合 計	334,880	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
ドアマット制作訓練	181,470	材料費：布製ロープ 78,200円
		機械設備 12,420円
		旅費 34,500円
		昼食・お茶 40,250円
		謝礼 16,100円
手工芸装飾品制作訓練	153,410	材料費：ビーズ 45,080円
		機械設備 27,600円
		旅費 34,500円
		昼食・お茶 5,190円
		謝礼 11,040円
合 計	334,880	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 タイバーツ≒4.5円 (送金時2024年5月15日の為替レート)

共生コミュニティの構築

Sri Lanka **スリランカ**

氏名 Mahaladuwe Nandaratana ナンダ（8期）

所属団体 スリスガタ地域開発財団



私たちは、児童養護施設に入所している子どもたちと、地域に住む子どもたち、大人との間に壁を感じており、信頼関係が築けていないことを課題に感じていました。そこで、ともに家庭菜園づくりやワークショップに取り組むプロジェクトを実施し、地域で助け合える共生コミュニティの構築に取り組むことにしました。

所属組織の概要

私たちの財団は、地域開発のための事業を行っており、包括性・公平性を大切にする組織です。

財団にはスリスガタ教育文化研究所という児童養護施設とスリウィマラシリ日曜学校の2つの主要な施設があります。児童養護施設には、ホームレスの子どもたちが多く入所しています。衣食住と教育を提供し、日曜学校では児童養護施設に住む子どもたちと地域の子どもたちの両方に、宗教的な教育プログラムを実施しています。

事業の目的

本プロジェクトの目的は以下のとおりです。

- 児童養護施設の子どもたちと地域の子どもたちが、ともに地域で生活し成長していく仲間として、良好な関係を構築する。また、そのために必要な知識とスキルを身につける。
- 本プロジェクトに関わる大人と子どもたちの間で、自分の感情や経験を共有することができる信頼関係を築く。
- バランスの良い食事をとることができるよう食事改善を行い、健康的な生活を送るために必要な知識とスキルを身につける。
- 思いやりの心を持ち、地域で助け合える関係をつくる。

活動地域

スリランカ最大都市のコロンボの約100km南にあるバラピティヤ

対象者

児童養護施設の子どもたちと地域の子どもたち
30人、保護者20人、教師10人、政府関係者3人、
児童養護施設職員3人、地域リーダー4人



事業の成果

- 子どもたちがリーダーシップと生活スキルを学ぶワークショップを通じ、地域の子どもたちとともに学ぶ「インクルーシブ教育」の実践をすることができました。子ども達が楽しく学びあう関係性をつくることができました。
- 子どもたちが大人に信頼を寄せ、自分の感情や経験を大人に話すことができるようになりました。
- 児童養護施設に住む子どもと地域の子どもたちがともに作る家庭菜園ができました。自分たちで収穫した野菜を使って栄養バランスのとれた食事の大切さを学び、健康的な食生活を自分たちでつくろうという考え方を持つ子どもたちが増えました。
- 児童養護施設の職員、教師、保護者、地域のリーダーからなる一つのチームが構成され、地域全体で子どもたちを見守ることができるよう地域のネットワークができました。
- 児童養護施設の子どもたちがつくる家庭菜園とプロジェクトに参加する地域の子どもたちがつくる家庭菜園ができました。



実施内容

2024年4月2日～30日

まず、子どもたちのリーダーとその保護者が集まるグループミーティングを行いました。そこで、本プロジェクトの紹介を行い、「児童養護施設の子どもと地域の子どもたちが共に学びあうインクルーシブな環境をつくること」、「健康的な生活を送るために必要な知識やスキルの習得をめざすこと」等の目的を共有しました。また、プロジェクトに参加する、地域のリーダーや政府関係者に対しても、今回の活動に向けた思いを伝える会議も実施しました。

2024年5月10日～20日

参加する子どもたちに対し、プロジェクトのオリエンテーションを行い、子ども同士が協力することの大切さ、大人とともにプロジェクトに取り組む意味を伝えました。大人に対して良いイメージを持っていない子どももいるので、できる限り前向きに活動をスタートできるよう、優しい言葉で話をしています。



2024年6月9日～ 2025年3月

まず、子どもたちが参加するワークショップを企画しました。このなかで、有機農業について学び、自立した生活を送るために必要な生活スキルに関する教育も行いました。ワークショップでは、子どもたちが意見を出し合いながら生活や活動の工夫を話し合うことで、お互いの考えや性格を理解し、良好な関係づくりにつながりました。この関係をもって家庭菜園づくりにうつり、他者と助け合いながら、みんなが積極的に活動に参加していました。トラブルが発生した場合、大人が間に入って解決を促します。

また、並行してリーダー役を担う子どもに向けたリーダーシップ研修も実施しました。

すべての活動において、児童養護施設に住む子どもと地域に住む子どもを区別せず、ともに楽しく取り組んでいます。





今後の展望

今後は毎週日曜日に開催している、児童養護施設にいる子どもと地域の子どもが約100人集まる「日曜学校」で昼食の提供を通じ、栄養バランスのよい食生活の大切さとその方法を伝える活動を続けていきたいと考えています。そして、今回のプロジェクトのように、子どもたちが成長していくために必要なプロジェクトを、地域全体で考え、みんなで取り組んでいきたいです。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	384,000	
自己資金	118,560	
参加費	48,720	
合 計	551,280	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
オリエンテーション、有機農業や生活スキルに関するワークショップの開催	201,600	昼食・お菓子代80,640円 謝礼・交通費43,200円 ワークショップ用文具23,040円 参加者文具43,200円 プロジェクター 11,520円
教師・リーダー訓練	155,520	昼食・お菓子代69,120円 / 謝礼72,000円 ワークショップ・参加者文具14,400円
家庭菜園づくり	117,840	家庭菜園用種・植物22,320円 謝礼59,520円 / 文具7,200円 お菓子代28,800円
リーダー・教師振り返り	76,320	教師・生徒への贈り物40,320円 お菓子代36,000円
合 計	551,280	

注) 送金額（日本円）と受領額（LKR）から算出（送金時点2024年5月15日）
換算レート：1スリランカルピー≒0.48円

聴覚障害がある子どもへの職業訓練 ～芸術的な才能を伸ばし、 選択肢を広げるプロジェクト～

Sri Lanka スリランカ

氏名 W.G. Sanjeewa Aruna Kumara Rajapakshe サンジーワ (23期)

所属団体 センカダガラ盲聾学校



現在、私たちが運営している特別支援学校では、子どもたちへの教育を行うとともに、将来、子どもたちが自立して生活できるよう職業訓練も行っています。本プロジェクトでは、すべての子どもにさまざまな職業の選択肢があることを伝え、芸術的な才能を伸ばす職業訓練を行いました。

所属組織の概要

視覚障害の子どもたちと聴覚障害の子どもたちが点字や手話を通じて教育を受けることができるよう、特別支援学校を運営しています。また、教育だけではなく職業訓練プログラムも実施し、将来、自立した生活を送ることができるように支援しています。

事業の目的

本プロジェクトの目的は以下のとおりです。

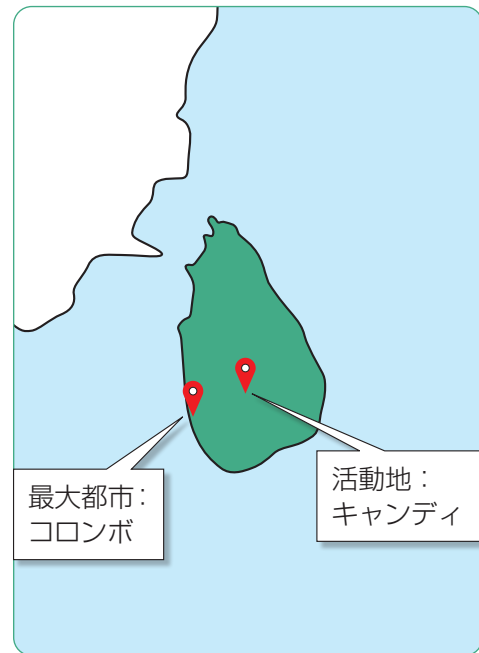
- 障害があっても、さまざまな職業の選択肢があることを子どもたちに伝える。また、具体的なイメージを持つため、今後のキャリア形成のひとつの選択肢を提示する。
- このプロジェクトに参加した子どもたちに証明書を与え、自分の学びについての自信をつける。
- 絵画の展示や、絵画の販売を通じ、社会とのつながりをつくる。

活動地域

キャンディにあるセンカダガラ特別支援学校

対象者

センカダガラ特別支援学校で学ぶ1年生～11年生までの聴覚障害のある児童全員（76名）



事業の成果

- ・聴覚障害がある子どもたちが、「自分の将来には多くの選択肢がある」ということを知り、前向きに将来を考えることができるようになりました
- ・子どもたちが将来自営業として芸術的な活動を選択した場合、収入源として生活していけるスキルを身に付けることができました。
- ・絵を描くことが苦手な子どもたちも、訓練を継続することで教師から高評価を得る経験ができました。その経験を通じ、諦めずに継続することの大切さを学び、それができたという自信につながりました。

実施内容

2024年4月22日～7月19日

このプログラムの目的を伝え、将来の職業選択の一つとして、聴覚障害のある生徒76名を対象とした芸術活動の職業訓練（美術）をスタートしました。最初は画材を子どもたちに渡し、使い方を学びます。絵を描くことが苦手な子どもも諦めずに訓練を続け、上達したことを評価する声かけをしました。



2024年7月22日～10月18日

4か月の訓練を踏まえ、子ども達のなかで、美術をもっと学びたいという意欲のある子どもと、将来芸術活動で収入を得られる可能性のある子ども達に限定し、訓練を続けました。

小グループに分かれ、より高度なテクニックを学びます。



2024年10月21日～2025年2月14日

前期までの訓練の時間に制作した美術作品を教師の間で評価し、芸術的な才能を感じる25名程度の子どもたちをさらに選びました。選ばれた子どもたちはキャンバスボードに絵を描き、150点もの作品を完成させました。



今後の展望

今後も、職業選択のひとつとして、芸術活動につながる訓練も継続していきたいと考えています。また、本人の意向と才能を丁寧に見極め、将来につながる専門的なスキルを獲得できる場所であり続けたいです。

今回のプロジェクトで制作した子どもたちの絵は、教師が広報を行い、販売していくことを予定しています。この収益は、制作した子ども本人に渡すことで社会とのつながりや自信を持たせたいと考えています。

将来的には、芸術的な才能を伸ばす活動に対する基金の設立をめざしたいです。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	284,125	
合 計	284,125	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
画材道具	162,400	アクリル絵の具 19,800円 白紙代 6,600円 絵筆代 36,000円 パレット代 15,000円 木製フレーム代 16,250円 木綿布代 12,500円 キャンバスボード代 56,250円
謝礼金	35,000	
証明書	10,000	
展覧会費用	20,000	
交通費その他経費	56,725	
合 計	284,125	

注) 送金額 (日本円) と受領額 (LKR) から算出 (送金時点2024年5月15日)
 換算レート: 1 スリランカルピー≒0.48円

農村地帯の 障害児のための保育サービス

Indonesia インドネシア

氏名 Wawan Setiawan Aks Mm ワワン（19期）

所属団体 ソシエタ・インドネシア



障害がある子どもたちに対して、一人ひとりのニーズに合わせた保育サービスを提供し、多面的な支援を行っています。また、子どもたちの個性や能力を大切にしながら、障害の有無にかかわらず、みんながともに生きる社会をめざしています。

所属組織の概要

社会福祉サービスを必要とする人に対し、適切な情報を提供するとともに、利用までの手続き等がスムーズに進むよう支援しています。個人へのサポートだけではなく、世帯単位で関わるケースもあります。また、地域に対する情報発信等も行っています。ソーシャルワーカー等の専門職とボランティアが協力して、活動を支えています。

事業の目的

本プロジェクトの目的は障害がある子ども達に対し、一人ひとりのニーズにあわせた保育サービスを提供し、個性を大切にしながら発達をサポートすることです。また、子どもだけでなく、家族へのサポートも行います。子どもを家庭で育ててきた家族も自分の時間を持つことができるよう、親が安心して預けられる保育サービスをつくります。

さらに、障害の有無にかかわらず、すべての人がともに生きるインクルーシブな社会をつくることを大きな目標に掲げています。



活動地域

西ジャワ州チアンジュールのジャヤギリ村とシンダン・バランおよびシダウン準地区



対象者

障害がある子ども（53名）とその家族

子どもは3～18歳で、精神的・知的に障害がある、発達障害がある、感覚障害や運動障害により日常生活に困難がある、健康面で問題がある等、特別なケアやサポートが必要な子どもです。

事業の成果

- 障害のある子どもに対する特性や個性にあわせた保育について、子どもの親にも参加してもらい一緒に実践しました。実践を通し、子どもの幸福を改めてともに考え、親が子育てに必要な知識やスキルを習得することで、子育てに対し前向きに考えることができるようになりました。
- 障害のある子どもたちへの保育場面に、地方自治体や地元のコミュニティ団体の関係者にも参加してもらいました。地域としてインクルーシブな環境をどのように整えるかをともに考えるきっかけとなり、地方自治体から「障害のある子どもやその家族をサポートするセンターを設立したい」という将来ビジョンを聞くことができました。



実施内容

2024年6月20日～12月22日を実施期間として、以下の内容を行いました。

●障害児への保育を行うスタッフ間での活動内容の協議と共通認識の醸成●

本プロジェクトを進めるチーム（スタッフ・幹部・ボランティア）で打合せを行い、活動内容について話し合い、目的や目標について全員で確認しました。



●子どもと親のニーズを聞き取り、支援プログラムを作成●

子どもと親に対して面談を行い、子どもの身体・認知・感情・社会的発達についての評価をするとともに、保育ニーズを聞き取りました。それらの情報を整理し、個別の支援目標と支援プログラムを作成しました。

●保育サービスの実施と、自立に向けて必要な社会経験・生活スキルの研修●

支援目標、支援プログラムに沿って保育サービスを実施しました。読み聞かせや音楽・芸術活動などの子どもに合わせた活動や、それぞれのスキルに応じた学習支援など、11種類の活動を組み合わせて毎日の保育を行っています。また、活動のなかには、子ども達が社会生活のなかで必要なコミュニケーションスキル、公共交通機関の乗り方等の生活スキル等を学べるプログラムも組み込んでいます。さらに、子どもの発達を支えるため、理学療法・作業療法・言語療法・行動療法など、さまざまな面からのアプローチも取り入れました。活動のなかには、家族や地域に住む親子にも参加を呼び掛けるものもありました。



●プロジェクトの振り返りと評価●

活動中は、チームで定期的に振り返りやミーティングを行い、子どもたちの進捗状況やプログラムの効果について評価を行いました。必要に応じて支援計画の見直しも行いました。また、子どもたちの両親に定期的に子どもの状況を共有する機会も設けました。

最終日には、子ども達に感想を聞く時間をつくり、スタッフ間でもプログラムの成果を話し合い、プロジェクトの評価をしました。



今後の展望

まずは、このプロジェクトをブラッシュアップしながら、継続していくことが目標です。そのために、今後は、企業とのパートナーシップをつくることやクラウドファンディングなどを行い、運営資金を獲得していくことが必要だと考えています。

さらに、障害がある子どもと家族に対しきめ細やかな支援を行うため、スタッフの増員や連携先の社会資源の選択肢を増やすことも検討していきたいです。専門的な資格をもつスタッフの人材不足も課題であるため、今後は大学とも連携して福祉分野の学生にもアプローチし、インターンシップなどを受け入れながら将来の活動の担い手を育成したいと考えています。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額（円）	内 訳
全社協からの助成金	304,500	
自己資金	121,800	
合 計	426,300	

〈支出〉

項 目	金額（円）	内 訳
プロジェクトに必要な会議と広報	72,210	資料印刷代 2,610円 会議費 46,110円 謝礼 23,490円
（活動初期）スタッフにむけた研修・オリエンテーションの実施	54,810	資料印刷代 13,050円 会議費 26,100円 謝礼 15,660円
（活動中期）スタッフにむけた研修・オリエンテーションの実施	54,810	資料印刷代 13,050円 会議費 26,100円 謝礼 15,660円
（活動後期）スケールアップ研修	54,810	資料印刷代 13,050円 会議費 26,100円 謝礼 15,660円
評価会議の開催	64,380	資料印刷代 2,610円 会議費 46,110円 謝礼 15,660円
メンター・チューター雇いあげ費	78,300	
研修の講師（監督官）委託費	46,980	
合 計	426,300	

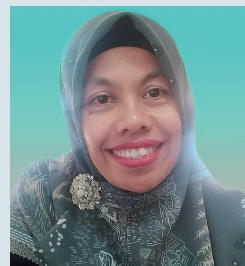
注）インドネシアルピー（IDR）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1ルピー≒0.009円（2024年5月15日の為替レート）

高齢者向けの 健康に関する意識啓発

Indonesia インドネシア

氏名 Eneng Ernawati エレナ (28期)

所属団体 ヤヤサン・ウサハ・ムリア



インドネシアは人口が世界で4番目に多い国ですが、医療・教育・福祉サービスは不足しており、適切な支援を受けることができない人が多く存在します。そこで、私たちはインドネシアでの長年の地域福祉活動の経験を活かし、高齢者が健康的な身体をつくり、生活を向上させるためのプログラムを実施しました。

所属組織の概要

私たちの財団では、主にインドネシアの貧困家庭が多い地域に対し、支援活動を行っています。健康・教育・地域開発の分野で総合的な支援、そして、持続可能な支援を続けていくことが最大の目的だと考えています。

事業の目的

以下の目的のために実施しました

- 貧困状態にある高齢者の栄養状態を改善するとともに、ライフスタイルを見直して健康的な生活を送ることができるように支援する。
また、食事や生活に関する情報を共有し、健康を意識した生活の維持をめざす。
- 心の健康を維持できるよう、高齢者同士の交流と助けあいの輪を広げ、社会とのつながりをつくる。



活動地域

西ジャワ州、チパナス村
(チバタック)

対象者

高齢者75名

**事業の成果**

プロジェクト開始時には75名の高齢者の参加を想定していましたが、合計290名の高齢者への支援を行いました。年齢はさまざまで、最年少は60歳、最年長は87歳でした。毎月、高齢者一人ひとりの体重と身長を測定し、データを分析したところ、プログラム期間中はほとんどの高齢者の栄養状態が良好でした。

また、心身の健康を維持するうえで「運動」は重要な要素です。しかし、参加者の多くは運動をしたことがなく、運動の時間を確保することが難しくその方法も分からないと話していました。プログラムのなかでできた友人とともに、日常の中で続けていける運動を学ぶことで、自分たちで健康的な生活を維持できる高齢者が増えました。



実施内容

2024年4月～2025年3月までの1年間で、さまざまな活動を実施しました。

●健康面でのプロジェクト：総合医療サービス●

生活に困窮している高齢者は、定期的な健康チェックを受ける機会がありません。自分の健康状態を知ることができないまま、重大な疾患・疾病が分かり、自立生活が困難になるケースが増えていました。そこで、高齢者が自分の健康を維持するために必要な知識を得るためのセミナーを開催し、健康状態を把握する取組からスタートしました。

セミナーでは、講師が健康や医療について講義し、健康維持に必要な食事、運動等の情報を伝えました。また、セミナー会場ではスタッフが参加者の栄養状態を確認しました。身長・体重等の基礎的なデータや、血圧測定、血液検査によるコレステロール値や血糖値のチェックなど、さまざまな検査を組み合わせ、健康状態を評価しました。検査の結果、慢性疾患のリスクが高い高齢者や高血圧とその予備軍に該当する高齢者が多数いました。

健康上の問題が明らかになった利用者に対して、投薬治療を開始するとともに、医師や医療スタッフが定期的な健康相談を行いました。また、運動ができる体調の高齢者には、健康維持のためのエアロビクスを勧め、みんなで楽しく運動する機会をつくりました。



●心理面でのプロジェクト：様々な創作活動●

健康的な生活のために、心が元気であるかも重要だと考えます。そこで、高齢者が孤独にならないよう、高齢者同士と一緒に楽しく過ごせる活動や子どもたちとの交流の場をつくることにしました。活動は、テーブルクロス制作（プラスチック製のコーヒーマグからテーブルクロスを作る活動）や、野菜の栽培、幼稚園の子どもたちへの読み聞かせ活動などさまざまです。

また、活動時には健康的な食べ物を用意し、参加者全員に配りました。8月17日の独立記念日には参加者が主体となって競技を考え、楽しんでお祝いしました。

参加者同士の交流を深め、心の健康増進につながる活動となりました。



今後の展望

私たちは、このプロジェクトに参加してくれた高齢者が、医療的な介入がなくても、できる限り長く、自分で健康的な生活を維持できるようになってほしいという思いがあります。いずれは、活動に参加する高齢者の輪を広げるとともに、その家族とも知識を共有し、さまざまな地域や社会全体で高齢者の健康維持に取り組んでいきたいと考えています。

さらに、活動地域に住む人びとの多くは収入の少ない農家で働きます。このプロジェクトを継続し、貧困状態にあって人とのつながりも少ない高齢者にもアプローチしたいです。

収支報告

〈収入〉

項 目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	285,142	
合 計	285,142	

〈支出〉

項 目	金額 (円)	内 訳
人件費（講師・スタッフ）	81,000	保健教育家5,400円 医師・看護師交通費10,800円 社会スタッフ費用分担64,800円
プログラム活動費	159,510	栄養サプリメント81,000円 コレステロール検査26,775円 尿酸検査14,400円/血糖値検査17,976円 アルコール綿6,750円 モニタリング・評価12,609円
運営・管理費	44,632	
合 計	285,142	

注）インドネシアルピー（IDR）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1ルピー≒0.009円（2024年5月15日の為替レート）

令和6（2024）年度修了生福祉活動助成事業 （アジア社会福祉従事者研修修了生助成）

実施要綱

2023年11月1日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

1. 趣旨・目的

本事業は、アジア社会福祉従事者研修修了生（以下「修了生」）が行う社会福祉活動（事業）等への助成を通じて、アジアの社会福祉の発展に寄与することを目的とする。

2. 助成対象及び助成条件

（1）助成対象

・本事業は修了生の活動組織が助成を活用して新しい事業活動を立ち上げたり、様々な福祉ニーズに対応したりすることに資するための助成事業である。団体の日常的な運営等に充てるものではなく、上記の目的に沿った特定の活動への助成であることに留意すること。新規事業だけでなく、すでに助成を受けた事業で、継続するものや関連するものでも可とする。ただし、同一団体または修了生の連続した申請は2年を上限とする。

（2）事業の実施者

原則として、以下の活動（事業）を助成対象とする。

- ①修了生所属団体が実施する社会福祉活動（事業）。
- ②修了生グループが協力して行う社会福祉活動（事業）。

※修了生の社会福祉活動（事業）に対し助成を行うものとし、組織の運営費や施設整備費等には助成を行わない。

（3）助成条件

以下のいずれの項目も満たしていること。

- ①活動（事業）の目的が明確で、具体的な成果が期待できるもの。
- ②活動（事業）の運営に関して、修了生が必ず関わっていること。
- ③修了生所属団体の代表者が認めたものであること。
- ④期限までに所定の様式により報告が行えること。

*なお、2023年度に助成を受けた団体については、当該助成事業の事業報告書（事

業が完了していない場合は中間報告書）が全社協に提出されていることを条件とする。

（４）助成対象者、助成事業実施団体の責務

- 修了生は、事業の実施者（担当者）として責任を負う。
- 国際福祉協力センターへの連絡、申請書、事業報告書等の書類の提出は、修了生の仕事とする。国際福祉協力センターからの照会に対しては、速やかに回答すること。
- 所属団体代表者や施設長には、事業を適正に運営する責任が発生する。
事業の申請書（計画書）・報告書は、団体代表者・施設長が必ず確認し、サインをすること。サインのないものは、申請を認めない。
- 助成金は、アジアの社会福祉の向上に心を寄せる日本国内の多くの支援者（個人や福祉団体等）からの拠金によるものである。修了生や所属団体は、それらの支持者の意思に誠実であることが求められる。そのため、助成金の適正な執行、種々の締切日に留意し、中でも支援者に対する事業の成果を適切に行うこと。

3. 2024年度助成金総額

300万円程度を予定。

4. 1件あたりの助成金額

原則日本円で30万円を上限とする。

5. 活動（事業）実施期間

2024年4月から2025年3月までに実施される活動（事業）を原則とする。

次年度以降も継続して行われる事業や1年以上の長期間のプログラムも可とするが、その場合は、あらためて助成を申請し、審査により決定する。

6. 申請者

申請者は母国で福祉活動に従事する修了生とする。

7. 申請・申し込み（手順）

助成を希望する修了生は、別添の①申請書様式に必要事項を記入し、②修了生本人の活動状況がわかる写真をオリジナルデータとともに添付のうえ、全社協総務部国際福祉協力センターに提出する。

8. 申請書類の締切

2024年1月5日（金）

9. 審査および結果通知

- （1）申請案件については、助成金額も含め全社協「国際社会福祉基金委員会」で審査を行い決定する。申請者全てに助成されるわけではないことに留意すること。
- （2）審査にあたっては、十分な成果が期待できる活動（事業）であることを重視する。
- （3）助成の可否については、2024年3月末までに、申請した修了生および修了生が所属する団体の代表者に通知する。なお、審査結果によっては、助成決定額が希望額を下回る可能性がある。

10. 書類の提出

次の書類を全社協総務部国際福祉協力センターに提出すること。

- （1）助成金を受領したとき ：領収書
- （2）助成金による事業の終了後：事業報告書

11. 連絡先（問い合わせ、申請、書類提出）

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 総務部 国際福祉協力センター
Japan National Council of Social Welfare, General Affairs Division,
International Center

4F Shin-Kasumigaseki Bldg., 3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
Tel: +81-3-3592-1390 Fax: +81-3-3581-7854 E-mail: z-kokusai@shakyo.or.jp

事業実施経過

■事業実施経過

令和5年7月	令和5年度 第1回国際社会福祉基金委員会にて 実施要綱を審議、決定
令和5年11月	実施要綱の発送
令和6年1月5日	助成申請の締め切り 申請：9事業
令和6年2月	第2回国際社会福祉基金委員会にて申請の審査 承認：8件 不承認：1件（災害緊急支援で助成）
令和6年3月	審査結果の通知
令和6年5月	助成金の送金
令和6年10月	修了生から事業の概要を紹介した動画の提供
令和7年1月	修了生から事業報告書、決算書の提出

■アジア社会福祉従事者研修 修了生助成事業の実績データ

○事業開始：1997年（平成9年）～

○助成先国別（1997～2024年）

	助成回数（団体数）	金額（単位万円）
韓国	10回（4団体）	395万円
台湾	9回（5団体）	360万円
フィリピン	45回（13団体）	1,323万円
タイ	66回（16団体）	1,919万円
マレーシア	13回（5団体）	385万円
スリランカ	30回（6団体）	823万円
インドネシア	42回（9団体）	1,140万円
バングラデシュ	4回（1団体）	150万円
	219回（58団体）	計6,495万円

○助成元組織（現在）：

公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、
公益財団法人全国老人クラブ連合会、国際社会福祉基金*

（過去の助成元）

社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金、安田火災ちきゅうくらぶ、霊友会、
全国保育士会、上溝保育園、アジア・フレンドシップ・ファンド（AFF）

※国際社会福祉基金と国際交流・支援活動会員

全国社会福祉協議会の国際交流・支援活動の財源となる国際社会福祉基金は、全国の福祉関係者からの拠金をもとに1991年に創設されました。この基金により、アジア社会福祉従事者研修を通して各国の研修修了生や彼らの推薦・所属団体と「顔の見える」ネットワークを築き、助成事業やスタディツアー、アジア社会福祉セミナー、災害支援などへと活動を広げ、お互いの信頼関係を深めてきました。これらの交流・活動に対し、福祉関係者の皆さまには、2016年度から「国際交流・支援活動会員制度」にご協力をいただいております。皆さまのご支援・ご協力に感謝申し上げます。

令和6年度会員数

法人・組織会員	30法人
賛助会員	2法人
個人会員	27名
育むプロジェクト支援会員	7名

The Philippines

フィリピン共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約30万km ² 日本の約8割
人口 ^{※1}	1億1,489万人（2023年）
人口密度 ^{※1}	383人／km ² （2023年）
主要民族 ^{※2}	マレー系が主体。他に中国系、スペイン系及び少数民族がいる。
主要言語 ^{※2}	国語はフィリピン語 公用語はフィリピン語、英語
主要宗教 ^{※2}	カトリック83%、その他キリスト教10%、イスラム教5%
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,950米ドル（2022年）
通貨 ^{※3} （1米ドル＝141.910円換算）	1米ドル＝55.567 フィリピンペソ（2023年平均） 100円＝38.46 フィリピンペソ レートは2024/5/15 時点
平均寿命 ^{※1}	男70.2歳、女74.2歳（2022年）
65歳以上人口割合 ^{※1}	5.3%（2023年）
合計特殊出生率 ^{※1}	2.73（2022年）

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2025年版 一世界各国要覧と最新統計

※2 外務省HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 統計局 世界の統計2025 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html>

Thailand

タイ王国 基本情報



面積 ^{※1}	約51.3万km ² 日本の約1.4倍
人口 ^{※1}	7,170万人（2023年）
人口密度 ^{※1}	140人／km ² （2023年）
主要民族 ^{※2}	大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等
主要言語 ^{※2}	タイ語
主要宗教 ^{※2}	仏教94%、イスラム教5%
政治体制 ^{※2}	立憲君主制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	7,240米ドル（2022年）
通貨 ^{※3} (1米ドル=141.910円換算)	1米ドル=34.223 バーツ（2023年平均） 100円≒22.22 バーツ
平均寿命 ^{※1}	男75.5歳、女83.9歳（2022年）
65歳以上人口割合 ^{※1}	14.7%（2023年）
合計特殊出生率 ^{※1}	1.32（2022年）

レートは2024/5/15 時点

※1 ニ宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2025年版 ー世界各国要覧と最新統計

※2 外務省HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 統計局 世界の統計2025 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html>

Sri Lanka

スリランカ民主社会主義共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約6.6万km ² （2022年） 北海道の約0.8倍
人口 ^{※1}	2,297.2万人（2023年）
人口密度 ^{※1}	350人／km ² （2023年）
主要民族 ^{※2}	シンハラ人（74.9%）、タミル人（15.3%）、スリランカ・ムーア人（9.3%）（一部地域を除く値）
主要言語 ^{※2}	公用語（シンハラ語、タミル語）、連結語（英語）
主要宗教 ^{※2}	仏教徒（70.1%）、ヒンドゥ教徒（12.6%）、イスラム教徒（9.7%）、キリスト教徒（7.6%）（一部地域を除く値）
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,620米ドル（2022年）
通貨 ^{※3} （1米ドル＝141.910円換算）	1米ドル＝200.434 スリランカルピー（2023年平均） 100円＝200.83 スリランカルピー
平均寿命 ^{※1}	男72.9歳、女80.2歳（2022年）
65歳以上人口割合 ^{※1}	11.7%（2023年）
合計特殊出生率 ^{※1}	1.97（2022年）

レートは2024/5/15 時点

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2025年版 ー世界各国要覧と最新統計

※2 外務省HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>※3 統計局 世界の統計2025 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html>

Indonesia

インドネシア共和国 基本情報



面 積 ^{※1}	約191.1万km ² 日本の約5倍
人 口 ^{※1}	2億8,119万人 (2023年)
人口密度 ^{※1}	147人/km ² (2023年)
主要民族 ^{※2}	約1,300 (ジャワ人、スンダ人、マドゥーラ人等マレー系ほか)
主要言語 ^{※2}	インドネシア語
主要宗教 ^{※2}	イスラム教87%、キリスト教10.4% (プロテスタント7.4%、カトリック3%)、ヒンズー教1.7%、仏教0.7% (2023年、宗教省統計)
政治体制 ^{※2}	大統領制、共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	4,580米ドル (2022年)
通 貨 ^{※3} (1米ドル=141.910円換算)	1米ドル= 15,416.00 ルピア (2023年平均) 100円= 11,111.11 ルピア
平均寿命 ^{※1}	男66.2歳、女70.4歳 (2022年)
65歳以上人口割合 ^{※1}	7% (2023年)
合計特殊出生率 ^{※1}	2.15 (2022年)

レートは2024/5/15 時点

※1 二宮書店 データブック オブ・ザ・ワールド 2025年版 ー世界各国要覧と最新統計

※2 外務省HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>

※3 統計局 世界の統計2025 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/index.html>

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業 2024年度実施報告
2024 JNCSW Grant Program for the Ex-Trainees of Asian Social Welfare Workers' Training Program

2025年 7 月

発行

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
TEL : 03-3592-1390 FAX : 03-3581-7854

Japan National Council of Social Welfare
International Social Welfare Fund Committee
Shin-Kasumigaseki Building,
3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
TEL : 81-3-3592-1390 FAX : 81-3-3581-7854
E-MAIL : z-kokusai@shakyo.or.jp

全社協福祉ビジョン 2020 推進事業

支え合う アジアの福祉
ネットワーク

